

縄文とケルト

辺境の比較考古学 (ちくま新書)



—だが、イギリスと日本の先史時代に、そのような直接の文化伝播はない。同じホモ・サピエンスという種、いわば同じ機種のコピューターにたとえられる共通性が、同じ反応、すなわち同じ形やデザインの遺跡を創案することにつながったのだろうか。

ちくま新書
1255

発売日: 2017年5月26日

出版: 筑摩書房

著者: 松木武彦

ユーラシア大陸の正反対に位置にある日本とイギリス。新石器時代、大陸では四大文明の地域のような「文明型」の社会が広まっていくなか、その果てにあった両地域では、「非文明型」の社会へと発展していった。直接的な交流がないこの二つの地域になぜ共通性が生まれたのか？ また、同じホモ・サピエンスなのに、なぜ大陸とは異なる方向へ進んだのか？ ストーンサークルや巨大な墓など、それぞれの遺跡を訪れることで、いままで見えてこなかった知られざる歴史に迫る。

<https://k2s.cc/file/e0d7ff8e27474/Kj6LJHCq0.pdf.rar>